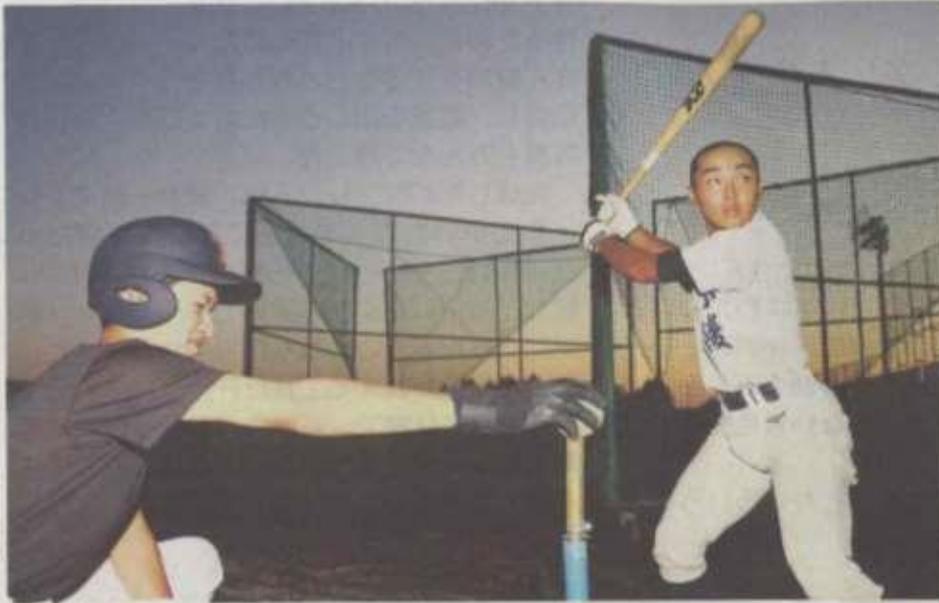


# 北見緑陵 連合チームで挑む

## 津別の2人と合同練習

北見市営球場で20日間 他校と組んで出場するの  
幕する秋の全道高校野球 は1983年の創部以来  
北見支部予選で、北見緑 初めて。少子化で存続が  
陵は津別との連合チーム 難しい野球部が増える  
で出場する。北見緑陵が 中、選手の出場機会を増



打撃練習をする北見緑陵の上田圭将(右)と津別の橋本選手(左野飛撮影)

## 初戦突破へ闘志 声かけ合い深まる絆

やす狙い。大会を前に北見緑陵と津別の選手は合同練習を重ね、一体感を高めている。

1、2年生の新体制で今秋の大会に臨む北見緑陵は、守備を置きながらの投打の練習、ティーバッティングやノックなどの練習に日々汗を流している。その練習に8月上旬から加わっているのが津別の橋本恵汰選手(2年)と藤田彪杜選手(同)。

2人は片道1時間半ほどかけて北見緑陵に通っている。

日本高校野球連盟によると、硬式野球の部員数は、記録の残る1982以降、14年にピークとなる17万人以上に達したものの、その後は11年連続で減少をたどる。

昨秋の北見支部予選から津別と連合チームを組んだ斜里は、今大会は不参加。7人いた3年生が今夏の大会で引退し、部員数は1年生と2年生の2人となった。選手の意

向も踏まえ出場を辞退したという。

北見緑陵は1年生6人、2年生6人の12人。

単独での出場も可能だったが、「2人から野球をするチャンス逃したくなかった」との白方幸監督の思いもあり、連合チームでの出場を決めた。津別の小堀健介監督は「大人数の中で、練習できるのは2人にとつて貴重な経験。多くの学校が出場することで支部大会が盛り上がると思う」と話している。

津別の橋本選手と、北見緑陵の上田健太(2年)はともに北見北光中の野球部出身。橋本選手は「緑陵の練習にもなじみやすかった」と話す。上田圭将は「声をかけ合いながら練習することを意識していて、チーム仲が良い」。練習を重ねるうちに下の名前で選手同士が呼び合うようになったという。

連合チームの1回戦の相手は今夏支部代表の北見北斗。初戦突破に向けて闘志を燃やしている。(佐藤菜々子、嶋崎由紀)